

水魔・各地で猛り狂う 新聞記事が伝える「28水」

「昭和28年水害」

新聞記事スクラップ

昭和28年（1953）6月25日から29日にかけて、九州北部地方を中心に集中豪雨による水害が発生し、各地に甚大な被害をもたらしました。この水害は現在「28水」と呼ばれ、未曾有の大水害として語り継がれています。

本資料は久留米市や筑後川に関する記事を中心にしつつ、遠賀川や室見川、佐賀市や大分県日田市に関するものも収めています。写真とともに「水魔むざんの足跡」「狂乱の『水魔』なお去らず」といった見出しが、当時の衝撃や緊迫感を伝えます。



昭和28年水害新聞記事スクラップ（表紙）

少年飛行兵を送り出す言葉 その思いと共に戦地へ

「出征旗」

本資料は、13歳の少年が陸軍少年飛行兵として出征する際に寄せ書きされた出征旗です。少年の父親のほか、卒業した尋常小学校の先生や同級生などから寄せ書きされており、少年飛行兵を鼓舞する「制空」「空之神兵」といった言葉が並んでいます。

当時、日本兵として出征する際には、その家族や友人などが「武運長久」の思いを込め日の丸に寄せ書きし、徴収された兵士はこれを大事に抱えて出征していきました。



親族や恩師、同級生からの激励の言葉が並ぶ

ビルマ戦線からの便り 戦地と銃後 思いは一つ

「河北家資料（第5次）」

本資料は、昭和18年（1943）

に、ビルマ派遣菊八九〇八部隊吉開隊所属の松田弘之氏から、篠山国民学校4年赤組の河北明子、小城啓子、藤井千春、下村澄子の4名宛に送られた軍事郵便はがきです。学校から、慰問として戦地に手紙や品物を送ったことへのお礼に返信されたもので、河北家で大切に保管されていました。

差出人の住所にある「ビルマ派遣



ビルマからの便り

菊八九〇八部隊」は、久留米で編成された第十八師団の所属部隊です。第十八師団は精鋭部隊として知られ、通称名「菊」が与えられていました。はがきが出された昭和18年頃のビルマの戦況は過酷でした。翌19年には、凄惨なことで有名なインパール作戦が展開されています。はがきには、仏塔、植物、ソウやトラなどの動物のイラストを織り交ぜて、赴任地の様子が書かれています。最後に、子どもたちへのメッセージが先生や父母の絵を入れて綴られ、「サヨウナラ」の文字とイラストで締めくくられています。